

1 次の文章を読んで、あとの問1から問6までの問いに答えなさい。

1 科学とは何だろうか？ それは、単に確実な知識のことではない。仮

説と検証によって確かめられた法則性によって世界を理解することが、科学という知の特徴である。古典力学も、相対性理論も、進化論も、遺伝子理論も、物の運動や生物の多様性、形質の遺伝などの観察可能な事実や出来事を説明するために、論理整合的に——ようにするに筋道立てて——作られた仮説、つまり仮の説明である。こうした仮説は、それらと合致する事実があり、そしてそれらを否定する事実が見いだされないかぎりで、さしあたり真なる理論として認められる。科学的な理論はこうした実証性——それを支持する事実があること——と反証可能性——その真偽が実験や観察によって証明されること——をもたなくてはならないとされる。^①こうした手続きによって科学、とりわけ自然科学は確実な知識としての明証性をもつものとされるのだ。

2 だがしかし、そうであるとすれば、ようにするに科学とは「すべてを知ることができる知」ではなく、「実証的な手続きによって知りうるものだけを知る」ような知なのだということになる。科学的な知は、実証的な手続きによって真であるとりあえず認められる仮説以外は、「(まだ) わからない」として判断を保留しなくてはならない。そしてまた、どんな理論も仮説である以上、つねに「とりあえず」で「今のところ」のものにすぎず、それに反する事実によっていつ否定されな

いともかぎらない。科学的な知は「A」真理などけっして指し示さない。それが提示するのは、いつ否定されてもかまわない「B」真理なのだ。(中略)

3 ところで、科学的であることと合理的であることは、いつも一致

するわけではない。科学的であるとは、世界に対する知識や探求、働きかけが、科学を特徴づける実証性や反証可能性にもとづくようになるということだ。それに対して^②合理的であることは、必ずしも科学的である必要はない。現代の日本語では合理的という言葉や合理化という言葉は、「効率的」や「効率化」という言葉とほぼ同じ意味で使われることが多い。だが合理的という言葉には、もっと広範かつ複雑なニュアンスがある。合理的であるとは、文字どおりには「理に合っている」ということだ。だが、「理」と言ってもいろいろある。与えられた目的に対して最小のコストで最大の効果を上げることが理にかなっていると考える人もいれば、たとえ効率が悪くても道徳的な正しさや倫理性といった価値観に即した行為や状態を選択することが理にかなっていると考える人もいる。

4 たとえばスポーツの試合で、対戦相手がどこかをけがしているとして、競技に際しての目標は勝利することだ。そして、より確実に勝利するためには、競技のルールに違反しないかぎりで相手の負傷を利用し、ときにそれを痛めつけるような攻撃を仕掛けることが理にかなっている。だがしかし、そのように相手の弱みを利用することは

ルール違反でなくともフェアではないと考えるならば、それは理にかなってはいないという判断もありうる。この場合には、相手の弱みを攻めないこと、ときにはそれによって自ら敗北してしまうことが、合理的であるということになる。このように、ある行為や状態が合理的であるかどうかは、どのような理を規準とするかで違ってくる。合理的な行為や状態とは、ある理の規準に関して適切な行為や状態が選ばれていることが、行為者にもそれを観察する人びとにも納得できるということなのだ。(中略)

5 現代の社会で合理的とか合理化と呼ばれているのは、主として科学的な知識やその応用である科学技術によって、ある目的に対する最も効率的な手段や方法を選択するような合理性とその追求である。〈1〉現代の技術文明は、こうしたさまざまな合理性の中で、科学的な知識にもとづく合理性を追求し、それを社会の中で応用することによって発展してきた。企業の経営、職場の管理、商品の開発などでも、科学的な合理性と効率の追求は最も大きな規準の一つである。新しい科学技術を応用した商品は性能を向上させ、最新の技術や知識を利用した生産体制や業務システムは効率を高め、コストの削減を可能にし、利潤の増大をもたらすのだ。日常の暮らしの中にも、科学化と合理化はさまざまな形で入り込んでいる。〈2〉さまざまな電気製品やガス製品は、炊事、洗濯、掃除などの家事の合理化を進めてきた。住宅の間取りやキッチンのレイアウト、家庭電気製品や家事用品のデザインでは、

最新の人間工学が応用され、無駄なく機能的な生活が設計される。どこかに行きたいと思えば、インターネットの路線検索等で、最も速いルートや最も安価なルートを調べ、そこから最も合理的な経路を選ぶこともできる。

6 〈3〉だがしかし、そうした科学化され、合理化された生活を営む個々人は、いわゆる専門家も含めて、特定領域の科学的成果を自らの手で検討したり、判断したりすることなどできない。もちろん私たちは、算数、数学、理科などの学習を通じて世界に対する科学的な理解の基礎を学んだことになっており、高度な科学技術もそうした基礎の延長線上にあるらしいということを知っているけれども、では具体的にそれらがどのような延長線の上にあるのかを説明することはできないことのほうが多いだろう。この机の上のパソコンが、台所のあの電子レンジが、なぜ、どのようにして動くのかを私は知らないが、それらを使えばある目的を容易に達成できるということは知っている。科学技術の高度化によって社会の合理性を高めるためには、その研究と応用を特定の専門家や機関にゆだねることが合理的であり、それゆえ個々の人びとはそうした専門化した科学や技術を理解できないことを甘受するのが合理的なのだ。〈4〉私たちは、特定の分野を担当する専門家集団や、彼らが設計・運営する技術やシステムの科学性と合理性を、理解はしていなくても信じているのだ。科学技術文明を生きる個々の人びとにとっての合理性とは、そうした専門家集団や彼らの

設計・運営する技術やシステムを信頼することが理にかなっているという合理性である。

7 科学技術の発展と社会への応用、浸透は、便利だが理解できない領域を増大させる。通常の暮らしの中で、私たちはこの「わからなさ」の領域に目を向けることは普通ない。だが、いったんそこに目を向けるなら、現代の社会が個々の人びとにとっては見通すことのできない不透明さをもった科学と技術の上に立っていることがわかるだろう。世界を透明で合理的なまなざしの下に理解し、操作することを可能にしてきた科学と技術は、専門家ではない個々人にとっては不透明だけれども役に立つ、まるで魔術のような領域を広げていったのである。こうした不透明さの中で、そもそもは仮説、つまり仮の説明にすぎず、実証的な手続きによって確認できないことについては「わからなさ」を甘受しなくてはならない科学とその応用である技術が、来るべき将来にはいずれすべてを説明し、解決することができる究極の真理であるかのように受けとられたり、語られたりすることになる。

（若林幹夫『社会学入門 一步前』による）
わかばやし みきお

（注） ○ 1 7 は段落符号である。

- 古典力学・相対性理論Ⅱいずれも科学の理論。
- 形質Ⅱ生物の形態的な要素や特徴。
- 明証性Ⅱ明らかであること。

○ 規準Ⅱ規範や標準とするもの。

問 1 ① こうした手続き の説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

- ア ある仮説と合致する事実が存在する一方で、その仮説を否定する事実は存在しないことが実験や観察によって明らかになること
- イ ある仮説が確実に正しいことを、実験や観察によってすでに証明されている理論と矛盾しないように説明すること
- ウ ある仮説の真偽を実験や観察によって確かめ、その仮説と合致する事実が否定する事実よりも多いことを確認すること
- エ ある仮説を支持する事実が実験や観察によって見いだされるだけでなく、世界中の科学者によって支持されるようになること

問 2 「 A 」、「 B 」にあてはまることばの組み合わせとして最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

- ア 「 A 」 実証可能な 「 B 」 不確実な
- イ 「 A 」 不確かな 「 B 」 確実な
- ウ 「 A 」 究極の 「 B 」 さしあたりの
- エ 「 A 」 相対的な 「 B 」 絶対的な

問3 合理的であることは、必ずしも科学的である必要はない とある

が、筆者がこのように述べる理由として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 合理的であるとは行為や状態が公平であることであり、実証性や反証可能性に基づく科学的な知識がなくても、公平であるかどうかの判断は道徳的に可能であるから。

イ 合理的であるとは理にかなっていることであるが、科学以外にもさまざまな理が存在しており、どの理に従ったとしてもそれぞれに合理的であると言えるから。

ウ 合理的であるとは理に合うという意味であり、科学的には正しくない知識に基づいていたとしても、大多数の人々にとって納得できるものであればよいから。

エ 合理的であるとは効率的であるという意味でもあるため、科学的実証的な手続きによらず、最小のコストで最大の効果を上げている場合も合理的であると言えるから。

問4 次の一文が本文から抜いてある。この一文が入る最も適当な箇所

を、あとのアからエまでのの中から選びなさい。

このとき、私たちは科学とその合理性を自らの判断において信じているのではない。

ア 本文中の〈1〉 イ 本文中の〈2〉

ウ 本文中の〈3〉 エ 本文中の〈4〉

問5 次に示す会話は、この文章を読んだ生徒六人が意見交換をしたも

のであるが、会話文の順序が入れ替えてある。筋道がとおる会話文とするためにアから力までを並べ替えるとき、二番目、四番目、六番目にくるものをそれぞれ選びなさい。

ア（Aさん） 現代の科学技術文明においては、そのように専門

的な科学や技術の内容が理解できないことを個々の人々が甘受し、科学や技術の研究と応用は専門家集団にゆだねることで、社会の合理性が高められてきたと筆者は述べています。

イ（Bさん） そのような、便利だが理解できない不透明な領域

の増大とともに、科学技術がやがて何でも解決してくれるという過剰な期待を人々が抱くようになる危

険性を筆者は指摘しています。

ウ（Cさん） 私たちは、科学技術のおかげで便利で快適な生活を送ることができていますが、筆者が述べているように、電気製品をはじめ、コンピュータや自動車などの身近な機械がどのようなしくみで動いているかはよく分かりません。改めて考えてみると、ちょっと怖い気がします。

エ（Dさん） 要するに、科学的な知というのは、実証的な手続きによってとりあえず真であると認められた仮説にすぎないということを自覚することが、合理的な態度であると言えそうです。

オ（Eさん） 確かに、科学技術の中身を自分では理解しないまま信じることは、便利さや効率性を簡単に手に入れられる点では合理的ですが、その合理性は本来科学がもっている合理性とは違い、不透明さをもったものです。

カ（Fさん） しかし、その場合の合理性は、仮説と検証を通じて確かめられる法則性によって世界を理解しようとする科学の合理性とは、根本的に異なっているように思います。

問6 この文章の論の進め方の特徴として適当なものを、次のアからカ

までの中から二つ選びなさい。ただし、マーク欄は一行につき一つだけ塗りつぶすこと。

ア 対立する二つの考えを示してそれぞれの考えがもつ欠点を明らかにし、いずれとも異なる独自の主張を展開している。

イ 複数の具体例について説明し、それらの共通点を取り出して自分の主張につなげている。

ウ 中心となる問題を提起したのち、個人的な体験談をくわしく紹介しながら問題の本質に迫っている。

エ 自分の主張を述べたのち、具体例を交えながら自説に対するくわしい説明を行っている。

オ 問いを立ててそれに対する答えを述べ、さらに想定される反論に答えることを繰り返している。

カ 自分の主張を述べる直前に逆接の接続詞を置くなど、接続詞を効果的に用いている。

2 次の問1から問3までの問いに答えなさい。

問1 次の文中の傍線部①、②に用いる漢字として正しいものを、それ

ぞれあとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

指導力を発揮して事態を^①シュウ^②シュウする。

① ア 秀 イ 修 ウ 収 エ 衆

② ア 愁 イ 拾 ウ 集 エ 蹴

問2 次の文中の傍線部と同じ意味で用いられている漢字として正しい

ものを、あとのアからエまでの中から一つ選びなさい。

彼は著しい成長を遂げている。

ア 著者 イ 名著 ウ 著述 エ 顕著

問3 次の文中の「A」にあてはまる最も適当なことを、あとの

アからエまでの中から選びなさい。

彼は何が起こつても泰然「A」としている。

ア 篤実 イ 虚心 ウ 自若 エ 余裕

3 次の文章を読んで、あとの問1から問5までの問いに答えなさい。

〔本文にいたるまでのあらすじ〕

茨城県立砂浦第三高校二年生の亜紗と凜久、三年生の晴菜が所属する天文部では、望遠鏡の製作に取り組んでいる。部品を発注した会社（SHINOSE）を三人で訪問した帰りの電車の中で、亜紗と晴菜は凜久から十二月末に転校することを伝えられた。亜紗と晴菜は学校に寄り、部顧問の綿引先生のもとを訪れた。

〔本文〕

1 「そうか。ようやくみんなに言ったか、凜久は」凜久の転校や家庭

の事情を、綿引先生は知っていた。それを知って、亜紗の体に入っていた力がするすると抜けていく。自分は話してもらえなかった、相談してもらえなかった、という思いは依然として強くある。だけど、その時亜紗が抱いた感情には、わずかに安堵が混じっていた。よかった、と思う。凜久、綿引先生には話せていたんだ。

2 「先生、教えてください」「何、晴菜」「凜久くんのお姉さんは車椅子を使っているんですか」その言葉に――はっとする。車椅子、ナスミス式望遠鏡。凜久が見つけたという海外の老人ホームの観測会の記事と、それを作りたいから綿引先生のいるこの学校に来たという入学動機。晴菜先輩が続ける。「下半身にまひがあると聞いたので、ひよつとしたら、と思って」「うん。凜久がナスミス式望遠鏡を作りたい理由には、それもあったみたいだね」綿引先生がゆっくりと椅子から立ち上がる。自分たちを――とりわけ、亜紗をまっすぐ見つめて、続ける。

「凜久のお姉さんには、ぼくも一度、実は挨拶したことがあるんだよ。去年、花井^{はない}さんの講演会に行った時に、車椅子専用スペースに、凜久とお姉さんがいるのを見かけて、ちよつとだけ、挨拶した」

3 そうだったんだ、と思う。凜久のお姉さんの話を、一度だけ、そういえば亜紗も聞いたことがあった。去年、まだいろんなイベントができた頃、宇宙飛行士の花井うみかさんの講演会があった際、凜久は亜紗たちと一緒にいかず、お姉さんで行った。お姉さんも星や宇宙が好きで、本当はお母さんと行く予定だったけれど、お母さんの都合が悪くなったので、凜久と一緒にいったのだと。だけど、亜紗は凜久の姿を見つけれなかったし、あの日、会場に車椅子の人たち向けのスペースがあったことも、まったく気づいていなかった。さつき車内で聞いたばかりの、凜久の声を思い出す。——ナスミス式望遠鏡が無事に完成したら、その観測会に、うちの姉ちゃん、呼んでもいいですか？ 綿引先生にも、前から、それ、相談してて。

4 「……悔しい」亜紗の口から、声がもれた。凜久、あいつ——、と思う。本人を前にしたら、次もまた、言えないかもしれない。だけど、今の正直な気持ちが始まらなくなる。「なんで、何も言ってくれなかったんだろう。悔しい。悔しいし、すごく……」亜紗は、気づけなかった。凜久が何も言えなくて当然だ、と思う。亜紗ちゃん、と晴菜先輩が呼んで、こちらを見ている気配がする。これ以上話すと涙が出てきそうで、そんなの、嫌だ、と強く思った。悔しいし、情けないけど、泣くなん

て、そんなの、凜久にもきつと失礼だ。「凜久はあいつ、ためこむタイプだからなあ。亜紗、ごめん」先生が謝る必要なんてないはずなのにそう言われると、いよいよ気持ちのやり場がなくなつて。亜紗はぶ^①んぶんと首を振った。

5 「ナスミス式望遠鏡のフレームはどうだった？ 野呂^{のろ}さんにも会ってきたんだろ」綿引先生が二人に尋ねる。話題を変えたわけじゃなくて、きつと凜久の件の延長だ。こくんとうなずく亜紗の横から、晴菜先輩が補足する。「フレーム、微調整は必要ですけど、すごくきれいで、やっぱりSHINOSEさんにお願いできてよかったです。これで、たぶん間に合う」「そうか、よかった」間に合う、よかった、という言葉が、これまでは晴菜先輩の卒業を指していたけれど、今は違う。綿引先生が言った。「あとは、ここからまたコロナの状況がひどくならないといいけど。観測会、無事にできたら、凜久にも思い出になる」思い出、という言葉聞いて、強烈に湧き起こる感覚があった。思い出は——確かにそうかもしれない。だけど、まだそんなふうになつてほしくなかった。亜紗は、ここににいるのに。ここに全部残していつてしまうような言い方、やめてほしい。「先生」「うん？」動揺と混乱と、激しいショックの中で、亜紗は聞いてしまう。答えを知りたくて。「凜久のために、私たち、何ができますか？」（中略）

6 昼休み、会話自粛がすっかり定着した食事を終えた時間帯、亜紗の教室に天文部の一年生たちが訪ねてきた。背の高い深野^{ふかの}と、小柄な

広瀬^{ひろせ}のコンビが教室の入り口に立ち、こちらに向けて手を振っているのが見えた時、亜紗は驚いた。後輩が訪ねてくるなんて、他の部の子同士では見たことがある光景だけど、自分には縁のないことだと思っていたからだ。急いで廊下に出ていくと、二人がぺこりと頭を下げた。「亜紗先輩、すみません」「今、大丈夫でしたか?」「うん。どうしたの? 何かあった?」「私たち、亜紗先輩に相談があつて」話なら部活の時でもいいのに——と思っていると、思いがけず、二人の目が気遣うように自分を見ていた。広瀬が言う。「私たち——、年内にも一度、スターキャッチみたいないかなって、実は、相談してんです。五島^{ごとう}チームとか、渋谷^{しぶや}の中学生たちに」「えっ……!」思わず亜紗の口から声が出る。二人の顔をまじまじと見てしまう。

7 「どうやって? ひよつとして綿引先生に頼んだり——」「あ、違います。違います。私たち、コンテストの準備してる合間にいろいろ話しながら連絡先交換してて。私は、五島の円華^{まどか}さんと。私も中学まで吹奏楽やってたから、なんか仲良くなれそうだなって」「私は、ひばり森中の天音^{あまね}ちゃんとショートメッセーじつながってます。好きなアニメの推しがかぶってたんで」いつの間に——と絶句する。スターキャッチコンテストの望遠鏡作りは、亜紗たち上級生はあくまでお手伝いで、確かに一年生が中心だった。二人が作業している横でナスミス式望遠鏡の製作に集中している時間帯も確かにあったけれど——一年生の二人を前に、亜紗は、ああ——と思う。最初からこの子たちに相

談すればよかったのか。一年生たちのたくましさがあまりにまぶしい。「②」亜紗の前で、深野の方が、「あ、で、ですね」と平然と続けた。「また、一緒に何かできたらいねって気持ちには、みんなもあるみたいですよ。来年またスターキャッチコンテストができればいいって話にもなってたんですけど、五島チームとか、今年で卒業の人たちも多いし、来年の夏はもうみんなバラバラだから、やるなら受験が落ち着いた三月とかなのかなって話してて」

8 そこで、深野と広瀬が顔を見合わせる。二人で話した後なのだろう。小さくうなずき合った後で、深野が続けた。「だから、私たちも話したんです。凜久先輩が年内で転校しちゃうこと。現地に来るのは無理かもしれないけど、ナスミス式望遠鏡ができれば、そのお披露目にはみんなのこともオンラインで招待したいって。そしたら——」「ひばり森の天音ちゃんから、スターキャッチや観測会もいいけど、年内なら、一緒にできるか検討してほしいことがあるから、今度またオンライン会議をしませんかって誘われたんです。また、全チームで」目を見開いた。わかったからだ。この子たちも、亜紗と同じ気持ちだったのだと。

(辻村深月『この夏の星を見る』による)

(注) ○ 1 8 は段落符号である。

○ 安堵^{あんど} 安心すること。

○ ナスミス式望遠鏡 十九世紀にイギリスのジェームス・ナスミ

スが発明した天体望遠鏡。どの方向を観測しても、観測者が目の高さを変えずにのぞき込むことができる特徴があり、車椅子に乗ったまま使用できる。

○野呂さんのろⅡSHINOSEの社員。

○スターキャッチⅡスターキャッチコンテスト。夏休みに亜紗たちが主催して行った、自作の天体望遠鏡で星を捉えることを競う大会。長崎県の五島列島の高校生チームと東京都渋谷区のひばり森中学校のチームなどがオンラインで参加した。

問1 ① 亜紗はぶんぶんと首を振った とあるが、このときの亜紗の心情

として適当なものを、次のアからオまでの中から三つ選びなさい。
ただし、マーク欄は一行につき一つだけ塗りつぶすこと。

ア 転校することについて凜久が自分に相談してくれなかったことを、悔しく思っている。

イ 凜久が家族の事情を話せないのは当然だと思いながらも、うそをつかれたことに傷ついている。

ウ 凜久との関係の悪化を晴菜先輩や綿引先生から心配されていることに、堪えられなくなっている。

エ 凜久が抱えている事情に気付けなかった鈍感な自分に対し、情けなく思っている。

オ 自分の感情を制御できなくなっているところに慰めの言葉をかけられ、一層感情が高ぶっている。

問2 第六段落における垂紗の心情の説明として最も適当なものを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 後輩が教室まで訪ねてくることは初めてだったので驚いたが、他の部員に聞かれない相談なのかもしれないと思い、二人の話を一言も聞き漏らすまいと緊張しながら聞いている。

イ 晴菜先輩が卒業したあとの天文部の活動に不安を抱いていたが、県外の仲間が今後の活動に協力してくれそうだと後輩たちから聞き、ほっとしている。

ウ 初めは後輩たちの来訪の意図が分からなかったが、年内にも一度スターキャッチコンテストのようなことができないかを一年生だけで県外の仲間と相談していたと知り、驚いている。

エ 凜久が年末に転校することを知ってから教室でも塞ぎ込んでいたが、後輩たちが自分を励ますために訪ねてきてくれたので、努めて明るくふるまおうとしている。

問3 「②」にあてはまる最も適当なことを、次のアからエまでのの中から選びなさい。

ア 口をつぐむ イ 息をのむ

ウ 耳をそばだてる エ 目を覆う

問4 次のアから才は、この文章を読んだ生徒五人が、意見を述べ合ったものである。その内容が本文に書かれていないことを含むものを二つ選びなさい。ただし、マーク欄は一行につき一つだけ塗りつぶすこと。

ア (Aさん) 綿引先生には、それとなく生徒たちのことを気遣い、見守っているような優しさと思います。だからこそ、部員たちが先生に本心をぶつけることができるのだと思います。

イ (Bさん) 凜久は、綿引先生には転校や家庭の事情といった個人的なことを打ち明け、相談することができていたようです。綿引先生も、姉に対する凜久の思いを理解した上で、部活動の指導をしているのだと思います。

ウ (Cさん) 晴菜先輩には、自分の思いを遠慮せずにはっきりと伝えられる強さがあるように思います。でも、凜久が転校することを聞いて動揺し混乱している亜紗の気持ちには、気付くことができていないようです。

エ (Dさん) 亜紗は、後輩たちが先生に頼らずに自分たちで考え、県外の仲間と協力してナスミス式望遠鏡のお披露目を開こうとしていることを聞いて、自分が気付いていなかったくましさを感じているようです。

フ (Eさん) 亜紗は、後輩たちが先生に頼らずに自分たちで考え、県外の仲間と協力してナスミス式望遠鏡のお披露目を開こうとしていることを聞いて、自分が気付いていなかったくましさを感じているようです。

オ (Eさん) 深野と広瀬は、とてもいいコンビだと思います。スタ

ーキャッチコンテストの望遠鏡作りを完全に一年生に任せ、上級生は手を出さなかったことで、チームワークと自立心が養われたのだと思います。

問5 この文章の表現の特徴として適当なものを、次のアからオまでの

中から二つ選びなさい。ただし、マーク欄は一行につき一つだけ塗りつぶすこと。

ア 会話文に加えて地の文によっても亜紗の内面が細かく描写され、凛久の転校を聞いた後の亜紗の動揺がありありと書かれている。

イ 回想場面を挿入して過去の出来事を描写することにより、人間の心理が時間の流れの中で変化することが示されている。

ウ 各登場人物が凛久との思い出を語ることで、凛久のために何かをしたいという思いが次第に形になっていく様子が描かれている。

エ 亜紗、晴菜、先生が会話をする場面では「――」や「……」を多用することで、三人のもどかしい気持ちが表現されている。

オ 昼休みの教室の場面は一年生の深野と広瀬が会話をリードする形で進み、二人の息がよく合っている様子が描かれている。

4 次の漢文(書き下し文)を読んで、あとの問1から問4までの問い

に答えなさい。(本文の……の左側は現代語訳です。)

太宗、侍臣に謂ひて曰はく、「古人云ふ、『鳥、林に棲むも、猶ほ其

の
高からざらんことを恐れ、復た木末に巢くふ。魚、泉に蔵るも、猶

獲
ほ其の深からざらんことを恐れ、復た其の下に窟穴す。然れども人の

る所と為る者は、皆、餌を食るに由るが故なり。』と。今、人臣、任を

受けて、高位に居り、厚禄を食む。①当に須く忠正を履み、公清
を踏む

べし。則ち災害無く、長く富貴を守らん。古人云ふ、『禍福は門無し、

惟だ人の召く所のみ。』と。然らば其の身を陷るる者は、皆、財利を

貪冒するが為めなり。夫の魚鳥と、何を以て異ならんや。卿等、宜しく

此の語を思ひ、用て鑑誠と為すべし。」と。

戒め……

お前……
たち

『貞観政要』による

(注) ○太宗Ⅱ唐の第二代皇帝の李世民のこと。

問1 ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹿 㺀 㺁 㺂 㺃 㺄 㺅 㺆 㺇 㺈 㺉 㺊 㺋 㺌 㺍 㺎 㺏 㺐 㺑 㺒 㺓 㺔 㺕 㺖 㺗 㺘 㺙 㺚 㺛 㺜 㺝 㺞 㺟 㺠 㺡 㺢 㺣 㺤 㺥 㺦 㺧 㺨 㺩 㺪 㺫 㺬 㺭 㺮 㺯 㺰 㺱 㺲 㺳 㺴 㺵 㺶 㺷 㺸 㺹 㺺 㺻 㺼 㺽 㺾 㺿 㻀 㻁 㻂 㻃 㻄 㻅 㻆 㻇 㻈 㻉 㻊 㻋 㻌 㻍 㻎 㻏 㻐 㻑 㻒 㻓 㻔 㻕 㻖 㻗 㻘 㻙 㻚 㻛 㻜 㻝 㻞 㻟 㻠 㻡 㻢 㻣 㻤 㻥 㻦 㻧 㻨 㻩 㻪 㻫 㻬 㻭 㻮 㻯 㻰 㻱 㻲 㻳 㻴 㻵 㻶 㻷 㻸 㻹 㻺 㻻 㻼 㻽 㻾 㻿 㼀 㼁 㼂 㼃 㼄 㼅 㼆 㼇 㼈 㼉 㼊 㼋 㼌 㼍 㼎 㼏 㼐 㼑 㼒 㼓 㼔 㼕 㼖 㼗 㼘 㼙 㼚 㼛 㼜 㼝 㼞 㼟 㼠 㼡 㼢 㼣 㼤 㼥 㼦 㼧 㼨 㼩 㼪 㼫 㼬 㼭 㼮 㼯 㼰 㼱 㼲 㼳 㼴 㼵 㼶 㼷 㼸 㼹 㼺 㼻 㼼 㼽 㼾 㼿 㽀 㽁 㽂 㽃 㽄 㽅 㽆 㽇 㽈 㽉 㽊 㽋 㽌 㽍 㽎 㽏 㽐 㽑 㽒 㽓 㽔 㽕 㽖 㽗 㽘 㽙 㽚 㽛 㽜 㽝 㽞 㽟 㽠 㽡 㽢 㽣 㽤 㽥 㽦 㽧 㽨 㽩 㽪 㽫 㽬 㽭 㽮 㽯 㽰 㽱 㽲 㽳 㽴 㽵 㽶 㽷 㽸 㽹 㽺 㽻 㽼 㽽 㽾 㽿 㿀 㿁 㿂 㿃 㿄 㿅 㿆 㿇 㿈 㿉 㿊 㿋 㿌 㿍 㿎 㿏 㿐 㿑 㿒 㿓 㿔 㿕 㿖 㿗 㿘 㿙 㿚 㿛 㿜 㿝 㿞 㿟 㿠